

目指す学校像	「教育は人なり」をモットーに、教育目標の「やり抜く子の育成」の実現のため、①笑顔輝く子 ②力を磨き合う教職員 ③考え、対話する組織を柱としたチーム指扇小が丸となり、学びの改革を推進する。また、Well-being な学校を目指し、笑顔の花咲く指扇コミュニティー・スクールを拡充する。
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びを実現するため、教育指導の充実に努める。 2 安心・安全の視点の下、教育環境の整備に努める。 3 子どもを見守る教育の推進を図るため、学校、家庭、地域との連携を深める。 4 専門性・得意分野を活かして力を発揮するプロ集団を目指し、教職員研修の充実に努める。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国や市の学習状況調査において、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」の質問項目の結果は肯定的な回答の児童が87%であった。一方、算数では苦手意識をもちやすく、無回答率が高い領域や苦戦する問題がある傾向である。 ○特別活動における「指小スタンダード」の活用により行事や委員会活動等で挨拶や説明を行ったり、学習においてプレゼンテーションをしたりすることを意欲的に取り組むことができる児童が多い。 (課題) ○全国や市の学習状況調査の分析結果から、課題解決に向けて粘り強く学びに向かう力(非認知能力)の向上を実現する。 ○学習に自信をもてない児童が多い現状があり、学習の意義を実感し、経験を通して達成感や充実感を味わえるようにする。	・学びの自律化・探究化に向けた授業改善と情報端末の活用 ・ともに学ぶ学校「真の学力の向上」「非認知能力の向上」を実現する教育活動の展開	① 児童が目標をもって主体的に探究的に学ぶ授業を実施し、教職員が学びの指標により状況を分析する。 ② ICTを活用した授業を学期1回以上公開し、ICT活用力、授業力を磨く。 ① SSSP等の活用による個の学習の状況を適切に把握する。 ② 全国や市の学習状況調査の結果を基に、PDCAサイクルを意識した授業を実践し、授業改善を図る。 ③ 非認知能力向上のための「指小版評価システム」を構築する。	① 学校自己評価(児童)の授業に係る項目の肯定的な回答が前年度を上回ったか。 ② 学びの指標等、ICTの活用に係るアンケートの肯定的な回答が市の平均より上回ったか。 ① 学校自己評価(児童)の授業に係る項目の肯定的な回答が前年度を上回ったか。 ② 調査結果の分析結果を踏まえ、教職員が各自、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。 ③ 非認知能力向上のための授業実践等を公開し、教職員間で協議できたか。					
2	(現状) ○学校自己評価(児童)の結果によると、質問「友達の気持ちを考え、仲よく過ごす」に対して肯定的な回答が3.60点(4点満点)前年度比で0.04点下がった。 質問「運動会などの行事や集会活動を楽しみにしている」に対して肯定的な回答が3.41点(4点満点)前年度比より0.15点下がった。 若干の下降だが、改善策が必要である。 (課題) ○児童一人ひとりの児童理解・状況把握を確実にし、個別最適な支援や相談対応をするために組織的な体制を強化する。 ○リフレッシュ工事に伴う教育環境の変化に柔軟に対応し、安心・安全を基盤に教育活動を積極的に実施する。	・個に応じたきめ細かな教育支援や相談等の校内体制の充実 ・安心・安全な学校の実現に向けた教育活動の土台の強化	① 「心と生活のアンケート」「SSSP」等により、児童各々の状況を継続的に把握する。 ② 3部会(生徒指導・教育相談・特別支援教育)をはじめ、ケース会議やミーティングを実施し、組織的に支援や相談を行う。 ③ 校内教育支援センターSola る一む『スマイル』により個に応じた組織的支援を実施する。 ① マニュアルに基づき、安心・安全に係る管理を確実にし、共に、リフレッシュ工事に伴った変更に対応する教育活動を実施する。 ② 情報を正確に把握し、状況に応じて迅速かつ適切な対応ができるよう、指扇ミーティング等の実施により組織的に共通行動をとる。	① 学校自己評価(児童)の学校が楽しいに係る項目の肯定的な回答が前年度を上回ったか。 ② 学校自己評価(教職員)の児童理解に係る項目の肯定的な回答が前年度を上回ったか。 ③ 学校自己評価(保護者)の相談等に係る項目の肯定的な回答が前年度を上回ったか。 ① 安心・安全に係る管理を安全点検日を中心に確実に実施できたか。 ② 学校自己評価(保護者・教職員)の安心・安全に係る項目の肯定的な回答が前年度を上回ったか。					
3	(現状) ○「笑顔の花咲く指扇」コミュニティー・スクールにおいて「郷土愛」「社会性」を育む取組が推し進められている。 ○創立150周年記念事業の成果により、地域と学校のつながりが見える、社会に開かれた学校づくりが進んだ。 (課題) ○学校運営協議会が主体となり、学校と地域がさらに繋がるための情報発信や協働的な取組を実施する。	・地域とともにある学校づくりを目指した指扇ネットワークの構築 ・地域とのつながりを強くする方策や機会の創出	① 学校運営協議会にて、目指す子ども像を具現化する方策を協議する。 ② 持続可能な取組の実現のため、PDCAサイクルに則り、評価、改善を行う。 ① ホームページ等で、学校の情報を発信し、家庭、地域と情報を共有する。 ② 家庭や地域と繋がる行事等の機会を増やす。	① 学校運営協議会年3回の会議を要し、SSNに関連するネットワーク会議を実施できたか。 ② 目指す子どもの姿を実現するため具体的な取組を企画・実施できたか。次年度へつながる手立てが講じられたか。 ① ホームページ等で、魅力的な内容を提示できたか。感想が好評か。 ② 家庭や地域と繋がる機会が増えたか。					
4	(現状) ○市教委の3年間の委嘱を受け、学校課題研究『Well-beingを実感する児童の育成～非認知能力の向上～』が本格的な実施となった。 (課題) ○「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の取組に基づき、教職員が自身の資質向上のため、主体的・対話的で深い学びをマネジメントし、研修を実施する。	・子どもたちのWell-being～子どもたちがよりよい人生を歩むために～『指扇プロジェクト』の実施	① 専門家の招致を取り入れた研修を推進し、研修組織を設立し、専門部の活動を開始する。 ② 教職員一人ひとりが自身の研修をマネジメントして、履歴を記録する。	① 学校課題研修の取組ができたか、教職員一人ひとりがキャリア振り返りシートの資質・能力の自己評価が年度当初より上回ったか。また、自己評価シートの研修に係る項目の評価で基準のB以上となったか。					